

2023年3月14日

神奈川県剣道連盟会員各位

新型コロナウイルス感染症流行時におけるマウスシールド、面マスク使用について

神奈川県剣道連盟会長
小林英雄

上記に関して全日本剣道連盟より後述のような通達が出されました。
神奈川県剣道連盟においてもこの通達に準じて実施していきますが。
当分の間、下記のような方針で臨みますのでご周知ください。

剣道実技開始前、更衣室、道場において
従前どおり、不織布マスクを着用してください

剣道実技時

- ・マウスシールド着用
- ・面マスク使用 個人の判断により着用は自由
面マスク使用→従来通り
面マスク使用せず→マウスシールド下部の隙間をスポンジなどでふさぐ



あごあて上部の灰色の部分

全剣連の実験データからはこの部分を塞ぐか、塞がないかでかなりの差が出ています。
神奈川県においては面マスク不使用の場合はこの部分を塞ぐことで統一します。
素材のスポンジは、飛沫を抑える効果が非常に強いと考えられます。その他の素材、面した
などの日本タオル素材等を重ねて使用しても良いと考えられます。

稽古に際しては、一緒に稽古する高齢者、重症リスクのある人への配慮をお願いします

・ 剣道実技時の面マスク、マウスシールドの着用について

全日本剣道連盟発表 2023年3月10日

政府（厚生労働省）は、マスクの着用について、「令和5年3月13日以降、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることになります。本人の意思に反してマスクの着脱を強いることがないよう、個人の主体的な判断が尊重されるよう、ご配慮をお願いします。」との方針を示しました。

公益財団法人全日本剣道連盟（以下「全剣連」という。）においても政府の方針及び全剣連による調査に基づき、令和3年8月4日付「対人稽古に関する感染予防ガイドライン」にかかわらず、令和5年3月13日以降、剣道における面マスクの着用は、個人の判断に委ねることといたします。

しかしながら、剣道は新型コロナウイルス感染症の感染原因となる飛沫を発する武道ということに鑑み、以下の諸点に留意して稽古をしていただくようお願いします。

1. 面マスクを着用しない場合は、口の部分を覆うシールドの着用をお願いします。

- 全剣連はシールドの飛沫防止能力について、再度科学的調査を実施しました。シールドは多くの種類が販売されていますが、全剣連の行った調査によれば、大きな飛沫（ 5μ 以上）については各シールドとも一定の効果がありました。しかし、小さな飛沫（ 0.5μ 以上）については各シールド間で飛沫防止能力に差があり、シールドの形状によっては、ほとんど防止能力がないものもありました。ただし、全剣連の調査では、シールドの下部の隙間をスポンジ状のもので塞ぐと、飛沫飛散の防止に大きな効果を得ることができました。ぜひ参考にしてください。



【参考】全剣連の調査

5μ 以上の飛沫は、その多くが1.5～2メートルの距離で落下しますが、より小さなものは空气中を漂い、オミクロン株の感染原因になります。このため全剣連は、5種類のシールドについて、大きな飛沫（ 5μ 以上）と小さな飛沫（ 0.5μ 以上）に対し各々どの程度の飛散防止能力があるかを調査しました。結果は以下の通りです。

- 大きな飛沫（5 μ 以上）14%～89%の飛沫防止
 - 小さな飛沫（0.5 μ 以上）マイナス30%～47%の飛沫防止
 - スポンジ装着 小さな飛沫68%、大きな飛沫95%を防止
- 面マスクの着用は個人の判断ですが、重症化リスクの高い人（基礎疾患のある方、例えば70歳以上の高齢者等）については、感染防止のため引き続きマスク及びシールドを着用した方が良いとの専門家の意見があることにもご留意ください。

2. 面マスクの着脱を問わず、以下の基本的な感染対策につきましては引き続き徹底いただきますようお願いいたします。（「[対人稽古に関する感染予防ガイドライン](#)」参照）

- 工業用送風機を用いるなど、道場内の換気の徹底【重要】
- 二酸化炭素チェッカーの設置
- ワクチン接種の推奨
- 三密の回避
- 手指の消毒

3. 居合道、杖道においても、面マスクの着用は、個人の判断に委ねることといたします。

註 社会生活時のマスク着用についての政府通達

マスク着用は3月13日以降個人の判断に任されます。

政府は引き続きマスク着用を推奨する場面として、

- (1) [医療機関](#)の受診、
- (2) 医療機関や[高齢者](#)施設への訪問、
- (3) 通勤ラッシュなど混雑した電車やバスのなか
その他
- (4) [医療・介護従事者](#)や[発熱](#)などの症状がある人にも着用を求める、
があげられています。

神奈川県では別途（4）について遵守するようもとめると発表されています。

文責 野見山すすむ